

日本大学東北高等学校同窓会会報



桜采



発行日/2010年7月30日

発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1

編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1955

第8号

日本大学東北高等学校学生歌

一

若い叡智の 花ひらく
青春の苑 アカシア林
あこがれの 雲赤く
映ゆる 宇津峯
あ、美わしの 学舎よ
常に幸あれ

二

花の未来を 阿武隈の
流に語る 若人我等
郭公鳥 高啼けば
胸もおどるよ
あ、夢多き エンジニア
常に幸あれ

三

雪が痛いよ 耳たぶに
臉も凍る 磐梯おろし
耐えて行く 我にこそ
春のよろこび
あ、創造の道はるか
常に幸あれ

四

金の葉が散る アカシアの
木陰を行けば 涙も光る
純情の日を三歳
送る 学舎
あ、仰ぎみる 我が母校
永遠に栄あれ

会長あいさつ

復刊の辞

日本大学東北高等学校 同窓会会長
第15期卒 柳 沼 正人



長年の課題でありました同窓会会報誌「桜朶」が復刊されました。

本校同窓会は、第1期卒で初代会長を務められた故長谷川 武様や廣長 威彦様をはじめとする多くの先輩方の熱い母校愛と同窓生相互の友情を根とし、発足して早58年の時を経ております。その間、同窓生と母校の掛け橋としての会報新聞「桜朶」が昭和32年7月10日に創刊されましたが、昭和41年の第7号以来休刊となっていました。

この度、装いも新たに44年ぶりに皆様のお手元にこの「桜朶」をお届けできますことは、同窓会を代表する私にとって大きな喜びでございます。この会報誌を通じ、皆様方と母校を結ぶ絆がより一層深くなるものと信じてやみません。また、会員相互の親睦を深める一助となれば幸いです。私も60歳を越え、各支部の懇親会やクラス会の席上では、学校の今昔の感で話題が広がり、楽しい時間を過ごすことが多くなりました。10代の若かりし頃を懐かしんだ後はいつも、不思議と活力を得ることができます。その度にしみじみと母校とはありがたいものだという思いを新たにいたします。母校があるからこそ、恩師と一緒に青春を過ごした友や先輩・後輩に出会うことができましたし、母校があるからこそ、共通の思い出をもつことができましたわけてすから、私にとっての母校は本当に貴重な存在です。

会員の皆様におかれましても、年1回発行される「桜朶」を通じ、思い出がいっぱい詰まった母校での青春時代を振り返りながら、大いに活力を得ていただけましたら幸いです。

最後に、今春までの卒業生総数32,454名の会の運営および名簿整理等について、授業後の時間を惜しむことなく努力していただいている事務局の先生方の労に対し、心から敬意を表し感謝いたします。今後も会員皆様のご要望等を賜りながら、母校と同窓会発展のために益々のご支援を切にお願い申し上げ、復刊のご挨拶と致します。



校長あいさつ

不易流行

日本大学東北高等学校 学校長
松本 幹雄



同窓生の皆様、昨年4月に本校長として赴任してまいりました。2年目を迎えますが、これまで生徒諸君、教職員、そして同窓生や保護者の皆様のおかげをもちましてこれまで大過なく勤めさせていただいております。感謝申し上げます。

本校は昭和26年に創設され、来年で創設60周年を迎えんとしております。最初は日本大学東北工業高等学校としてスタート、その後昭和53年には現在の日本大学東北高等学校に校名を変更し、さらに平成元年には、男女共学となり、またⅡコース（特進コース）を設置し現在に至っております。この間、多くの有為な卒業生が巣立たれ、県内外はもとより国内外で活躍されておりますことは論をまちません。

現在の本校の状況をかいつまんで申しますと、在校生数が1400名弱で37クラスからなっています。特に今春の入学生が497名と予想を大きく上回ったことは、先輩方が作られた歴史と伝統が、地域の理解を得られたからこそと感謝申し上げます。

進路実績は、日本大学220名、国公立大学41名、他私立大学247名、専門学校73名、就職8名となっております。それぞれ多岐にわたる生徒の進路希望を叶えんとして学習指導、進路指導に当たった結果でした。筑波大、お茶ノ水女子大や北海道大、横浜国立大、早稲田大、慶応大、青山学院大などの難関大学にも合格をしております。また、卒業生を対象とした進路満足度調査の結果、「満足」が47%、「まあまあ満足」が42%と、合わせて約9割の生徒が評価してくれました。苦勞が報われた感じがしました。

スポーツ面では、全国大会に団体もしくは個人としてテニス部、体操部、陸上競技部、水泳部、ライフル射撃愛好会が駒を進めました。野球部は夏の甲子園大会県予選に向けて猛練習をやっているところです。これからさらに大きく飛躍するためにも、同窓生の方々のご支援を宜しく願います。

ところで、この半世紀の歴史を振り返ってみますと、戦後の混乱期を脱するため、文部省（現文科省）を中心としてある程度以上の人材を多量に育成しなければならなかったため、公立の学校中心にその任にあたりました。しかし、詰め込み教育の弊害が声高に叫ばれるようになると、価値基準が変化していき、Having Value（物質中心主義の価値観）からBeing Value（精神中心主義の価値観）へと変わってきました。そうすると文科省を旗艦とする公立学校の護送船団方式ではなしえなくなってしまいました。それを可能にするのは私学なのだと思います。そのような時代の趨勢の中、本校としても、先輩たちが築かれた歴史と伝統の重さを体感しながら、不易流行の言葉のとおりますます大きく発展させていく所存です。

今後ともよろしくご協力くださいますようお願いいたします。

「桜朶」— 創刊の懐旧

第1期卒 電気科
廣長 威彦

昭和29年3月の1期生卒業から早や4年の歳月が流れ、昭和32年3月卒業の4期生までの会員は1206名を数えた。この年、ようやく会員相互の親睦と情報交換の場として、会報の刊行を検討した。

地元在住の1期生を中心に、2期生も加えた10名余に、母校に各科助手として在席した小林 健君（1期卒 電気科）、熊田 功君（1期卒 機械科）、工学部の柳沼 力夫君（1期卒 工業化学科）たちも含め、母校の情報や連絡を担当したように記憶している。

初代会長 長谷川 武君（1期卒 電気科）は、郡山に居住していたが、その後に田子倉ダム建設で活気ある南会津只見町に移住したため、編集会合には欠席のまま準備は進行した。

会長創刊の辞、母校二代目学校長 江崎 伸市先生と、教頭 庄司 俊夫先生にお言葉をいただき、徐々にお膳立ても整ってきた。

初代顧問の遠藤 義男先生には、会運営の会合に度々ご出席をいただきご指導や相談のアドバイスを受けた。また、創刊に当り原稿をお願いした。

編集は数名の有志が寄合い、何度も検討を重ねて何とか形が見えてきた。最終のまとめを、在学中に学校新聞の編集を担当した小生が引き受けた。そして、昭和32年7月10日付で創刊号が産声を上げた。改めて本誌創刊号ほかを見て、不十分な体裁だったことを恥じる心境である。

翌年の昭和33年に第2号を刊行し、更に昭和35年は母校創立10周年に当り、第4号を増頁にして、4面で記念の紙面を組んだ。母校に新校舎が落成し、アカシヤ林の向こうに建つ堂々の白亜3階はまぶしく見えた。2面の頭には、創立当時の木造校舎を小生が在学中に何枚かスケッチした中の1枚を選んでタイトルにした。

半世紀も昔の記憶は年々希薄になり、いま改めて「桜朶」創刊号を見ながら、かろうじて断片の往昔が甦り、二代会長半沢 忠君（1期卒 機械科）・三代 寺田 宏君（2期卒 工業化学科）他10名ほど集まり、刊行の都度郵送の宛名書きを分担したことを思い出した。

終わりに、度重ねて会合にご足労くださり、ご指導およびお世話下さった歴代顧問の遠藤先生ほか、松崎 全宏先生、そして森田 光次先生に、ここにお礼を申し上げる次第です。

おうだ 桜朶創刊

昭和32年7月10日



版画／白川郷浅春(3)'92 廣長 威彦氏

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜朶(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。

表紙写真(題号右上)提供／平 昌典(第28期卒)
(有)コマーシャルキューブ

平成21年度

母校の様子 1年間のあゆみ

4月 April

- 7日(火) 入学式
- 8日(水) 対面式／着任式／始業式
- 9日(木) 校外オリエンテーション(1年～11日)
- 16日(木) 日本大学附属高等学校等標準学力テスト
- 28日(火) 遠足(2・3年)／進路講話・自転車安全教室(1年)

5月 May

- 1日(金) 全校集会
- 2日(土) 後援会総会／学級懇談会
- 14日(木) 壮行会／生徒会総会
- 27日(水) 1学期中間試験(～29日)

6月 June

- 1日(月) 衣替え／全校集会 教育実習(～20日)
- 9日(火) 工学部学科説明会(13年理系)
- 19日(金) 学部学科理解ガイダンス(2年／午後)
- 29日(月) 1学期期末試験(～7／2)

7月 July

- 7日(火) 校内体育大会
- 13日(月) 第60次生徒会役員選挙立会演説会
- 14日(火) 第60次生徒会役員選挙
- 18日(土) 1学期終業式／第60次生徒会新役員認証授与式
- 21日(火) 夏季進学補習／オープンスクール(～27日)

9月 September

- 1日(火) 2学期始業式／服装指導／小論文模試(I・II3年)／成果テスト
- 5日(土) アカシヤ祭(学内公開)
- 6日(日) アカシヤ祭(一般公開)
- 9日(水) 芸術鑑賞会

10月 October

- 1日(木) 全校集会／衣替え／服装指導
- 3日(土) マラソン大会
- 4日(日) 日本大学創立記念日(120回)
- 13日(火) 2学期中間試験(～16日)
- 16日(金) 生徒による授業評価アンケート

11月 November

- 5日(木) 授業参観(保護者)(～7日)
- 7日(土) 文理クラス分け・コース変更説明会(I・II1年)
- 14日(土) 日大統一テスト(3年)

12月 December

- 9日(水) 2学期期末試験(～12日)
- 24日(木) 2学期終業式／成績会議

1月 January

- 12日(火) 3学期始業式／成果テスト(II1・2年／～13日)
- 13日(水) 特別授業開始(I3年／5・6校時／～29日)
- 16日(土) 大学入試センター試験(～17日)
- 25日(月) 推薦入学試験(～26日)

2月 February

- 1日(月) 全校集会
- 5日(金) 一般入学試験
- 6日(土) 予餞会
- 14日(日) 修学旅行(A班／～19日)
- 15日(月) 修学旅行(B班／～20日)

3月 March

- 1日(月) 第57回卒業証書授与式
- 2日(火) 学年末試験(1・2年／～6日)
- 10日(水) 春季代ゼミ特別補習(1,2年希望者／～12日)
- 20日(土) 3学期終業式

平成21年度

クラブ活動の記録

硬式テニス部

東北大会	
女子団体	2位
女子シングルス《二連覇》	1位
女子ダブルス	1位

東北大会	
女子学校対抗	1位
男子学校対抗	3位
女子シングルス《三連覇》	1位
女子ダブルス	3位

体操部

東北大会	
男子団体	6位
東北大会	
男子跳馬	3位・7位
男子あん馬	7位

バスケットボール部

東北大会	
男子	2回戦進出

陸上競技部

東北大会	
男子110Mハードル	5位
男子砲丸投	6位

東北大会	
男子砲丸投	1位
女子400Mハードル	2位
女子4×400M《大会新記録》	4位

東北大会	
男子砲丸投	3位
女子走幅跳	4位

ライフル射撃愛好会

第64回国民体育大会	
ARS 60 JM	8位

東北 北海道高校ライフル射撃	
男子エアライフル立射(60発)	1位・2位
女子エアライフル立射(40発)	2位
女子ビームライフル立射(40発)	3位

水泳部

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)	
男子飛板飛込	2位
男子高飛込	2位

第64回国民体育大会	
男子飛板飛込	2位
男子高飛込	4位
男子200M平泳ぎ	7位



平成21年度 卒業生合格状況

平成21年度卒業生総数493名

日本大学	220名
国公立大学	41名
他私立大学	247名
専門学校	73名
就職	8名

※延べ人数

◆ 日本大学

法	13	国際関係	11	生物資源科	10
文理	25	理工	21	薬	4
経済	19	生産工	16	短期大	2
商	14	工	76		
芸術	8	歯	1		

◆ 国公立大学

北海道大学	1	福島県立医科大学	2	お茶の水女子大学	1
弘前大学	2	会津大学	2	千葉大学	1
岩手県立大学	1	茨城大学	2	横浜国立大学	1
山形大学	5	筑波大学	1	前橋工科大学	1
宮城教育大学	1	宇都宮大学	3	高崎経済大学	1
福島大学	9	埼玉大学	1	山梨県立大学	1

ほか

◆ 私立大学

早稲田大学	1	明治大学	1	東京電機大学	5
慶応大学	1	青山学院大学	1	芝浦工業大学	1
東京理科大学	4	日本女子大学	1	東京都市大学	1
法政大学	7	東洋大学	5	明治学院大学	1
中央大学	3	専修大学	1	北里大学	2

ほか

平成19~21年度 退職された先生

※敬称略



[数学科]
小松 基扶
こまつ もとお
平成20年3月退職



[英語科]
海老名幸男
えび なゆきお
平成20年3月退職



[国語科]
小山田正宏
おやま だまさひろ
平成21年3月退職



[国語科]
益永 孝元
ますなが たかもと
平成21年3月退職



[数学科]
須藤 徹
すどう とおる
平成21年3月退職



[保健体育科]
猪腰 嘉勝
いのこし よしかつ
平成21年3月退職



[保健体育科]
石川 信義
いしかわ のぶよし
平成22年3月退職



[理 科]
能勢いずみ
のせ いずみ
平成22年3月退職

三世代賞

「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表すもので、平成15年度に設けられました。



平成21年度は、柳沼 芙美さん(郡山五)・齋藤 洸君(富田)・長谷川 幸美君(郡山二)の3名が、受賞されました。受賞者には、三世代の名前の入った記念の盾と電子辞書が贈られました。平成17年度と18年度に各1名ずつ、また平成20年度に2名、そして平成21年度(写真の3名)を合わせると、現在までに合計7名の方が受賞しています。

支部だより



県南支部総会



須賀川支部総会



南達支部総会

平成22年度 役員名簿

役 職	氏 名	期 卒
顧 問	松本 幹雄	校 長
	野口 哲	教 頭
	吉田 廣幸	第12期卒 事務課長
	小野公一郎	第 3 期 卒
	田母神忠孝	第 1 期 卒
会 長	平井 良一	第 7 期 卒
	柳沼 正人	第 15 期 卒
副 会 長	宗像 幸雄	第 6 期 卒
	石川 信義	第 12 期 卒
	吉田 勝盛	第 13 期 卒
	村山 廣嗣	第 16 期 卒
事務局長	高橋 敏行	第 26 期 卒
事務局次長	伊東 伸泰	第 35 期 卒
	向田 祐樹	第 37 期 卒
会 計	小林 鉄也	第 41 期 卒
	菅野 理	第 41 期 卒
会計監査	猪腰 嘉勝	第 10 期 卒
	伊藤 清郷	第 35 期 卒

平成22年度 各支部支部長名簿

支 部 名	支 部 長 名	期 卒
郡 山 支 部	須藤 和徳	第 11 期 卒
県庁アカシヤ会	菅野 眞一	第 17 期 卒
郡山市役所支部	吉田 安之	第 18 期 卒
須賀川支部	柳沼 力夫	第 1 期 卒
東白川支部	山本一三男	第 15 期 卒
石 川 支 部	小川 範明	第 9 期 卒
福 島 支 部	大橋 正義	第 4 期 卒
猪苗代支部	前後 公	第 7 期 卒
県 南 支 部	上田 雄司	第 8 期 卒
小 野 支 部	近野 惣一	第 2 期 卒
南 達 支 部	穂積 保容	第 11 期 卒
船 引 支 部	山代 孝夫	第 13 期 卒
曙ブレーキ支部	安瀬 文雄	第 18 期 卒
宇 都 宮 支 部	増子 貞佑	第 1 期 卒

懐かしの母校を訪ねて



日本大学東北工業高等学校
昭和34年度 機械科卒業生 同級会

昭和34年度 機械科卒業生同級会
母校訪問

代表者 第7期卒 **鈴木 良幸様**



機械科実験棟

《中略》一変した校舎群からは当時の校舎配置をなかなか想起できませんでした。移動中、木造建物の実習工場の前で歓声がありました。参加者は記憶の寄りどころを得た思いだったのです。旋盤実習中の学生グループがあり、静かに入場を許されました。皆、各種の工作機械の前に立ちつくし50年前に思いを馳せていました。

いま、少子化のなかで優秀な生徒をいかにして確保するか、工夫が求められる時勢で、母校の新しい取り組みの様子を感じました。母校訪問後の同級会では訪問できて本当によかったと異口同音に感想を述べあっていました。有り難うございました。

母校のますますの発展を祈念します。

～鈴木様の手紙より～



母校訪問時の集合写真

本校OB組織アカシア会(相模原鉄道株式会社) 母校訪問

代表者 第20期卒
昭和47年度卒業 **佐久間 島明様**

4月18日(日)、午後1時45分。大型バス1台から降り立った先輩方の表情は、懐かしさと驚きでいっぱいのようなようでした。「まずはトイレを貸して～!!(俺も、オレも!)」との声に笑いの渦。

相撲場～武道館～プール～旧実験棟の見学では、それぞれの場所ごとに思い出が尽きない様子で、特に電気科の実習用に立てられた2本の電柱では往時を偲び、話に花が咲きました。

1号館の教室内を見学するころには、先輩方の表情はすっかり高校生当時に戻ったようで、輝くような満面の笑みが見られました。

午後3時過ぎ、一行は次の目的地である花見山公園へ…。

遠方からの訪問ならびに写真提供、本当にありがとうございました。

【事務局】

- 同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



事務局よりお知らせ

- ◎同窓会のHP(ホームページ)が立ち上がりました!
東北高校のHPからリンクしております。今後内容を充実させてまいります。
URL(アドレス)は、<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>
- ◎HPから住所の変更ができるようになりました。
- ◎お友達やお知り合いの方で会報誌が届いていないという場合は、下の「はがき」または、同窓会ホームページの「住所変更フォーム」より手続きを行っていただけますようお願いいたします。
- ◎「お問い合わせのページ」から事務局へお問い合わせいただくことにより、クラス会などの案内情報を発信することが可能となりました。お気軽にご相談ください。
- ◎この会報誌「桜采」は、HPでもご覧いただけます。

編集後記

臨時役員会で、会報誌の復刊とホームページの立ち上げ、および同窓生の名簿の外部委託管理が承認されたのが、今年2月13日でした。5月の連休前に発送を完了させる予定でしたが、約3万名を超える卒業生の名簿整理に予想以上に時間がかかったこと、事務局での作業が校務に追われながらのものであったことなどから大幅に遅れてしまいました。申し訳ありません。

さて、編集のことがいつも脳裏から離れなかったせいか、6月に入ったある日夢を見ました。それは母校を巣立った同窓生の皆さんが軽やかに空を飛び、時空を超えて再び母校を中心にひとつとなっていく夢でした。上空を旋回するおびたしい人の輪と、その人たちの笑顔が、やがて立派に枝を張った桜の大木に吸い込まれていくというものでした。夢から醒めた時、「桜采」に込められた想いが、まさに現実のものになろうとしているのを実感しました。同窓生の一人として事務局に携わることの喜びを感じる一方で、責任の重さも感じています。先輩方が立ち上げた「桜采」をしっかり引き継ぎ、継続発行して参りますので、どうぞよろしく願いたします。

なお、この会報誌「桜采」は同窓会のHPからもご覧いただけます。来年は2年に一度の総会が開かれます。先輩方のご希望にお応えし、総会当日の母校見学も企画検討しています。詳細は後日HP(ホームページ)に掲載しますので、そちらをご覧ください。

おわりに、発行に際し、原稿を提供してくださった方々をはじめ、本校広報部、廣済堂、共栄印刷、國分スタジオの、関係各位に心よりお礼を申し上げます。
【事務局】



郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人払



差出有効期限
平成24年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行



現住所	〒		都道府県
TEL	携帯		
氏名	生年月日	男・女	
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。
同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限
ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合
ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について
ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について
個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。
個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局
郡山市田村町徳定字中河原 1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

